羽黒
月山
湯殿

三山雜集

下之一

縁起事跡
詩歌連俳

911.3
サ
下の2

元興寺

そもそも興福寺の伽藍今は荒廃して殿堂僧房

跡もなく由来のみ記す

權現森

一名寇森と唱へ乃ち東北方にあり毎年三月八月八日二季祭

權現遊戯あり夏花なり初春花二月八月戸開き号

供別当修行代参拝を聖(ヒジリ)の院あり別当修行饗宴を八月八日八幡堂

院あり右花宴あり毎年三月山桜

室花(ミ)戸と下す規式なるべし今は此事なし室

の礎石残れり寇森と名ぶくる事を寇八月山花江

たるふまれくかいこ伝へ迫門を荒江に流れ
堂にあるを法戸閉閉れ金紀あり

二夜沈

月山權現離宮に奉る鶴の恵海を滴る月に二
夜沈かとよりかくいなづけるも常に假山に
とい懸隔なる美景をうしわけく月に表ごろに
奥沈とうう満くるを洞庭に形勢成移るかと
おとしれ行るこまを流いい經堂院に院門をめぐり
湛たり

名月や燈籠ゆくれに　這　嵐雪

述懐成ぬるいらね鴨　呂笘

まうまれやの石と宮を乃法　李山

兒堂

兒童の本像あるを奥列信夫郡菊濤庄刀伯の系に
嫡子拔抜ちいへるを紀年より無に抜れ羽黒
山夏上阿闍梨ほうく佛敬を身をゆぶを行
容貌ゆんぶなる美麗ちりれば山中の侠僧等
爭い奪ふく花右に川合軍をかなて頭を
賢野を埋先磐八此ぬを納ん給ふ經堂院を
無漏回向に職あれば山ふに堂成造立一具の
作善に勅宣奉れり刀筆拔抜いへる為りい継加ん
姫より出に兒をむ明王に慈悲

それ眉の細さ涼しさ乃月　洲水

荒澤　附不動堂

[illegible]

[illegible]

往請れ猶ふ滝泉を淮ぶ　六れ根[illegible]あらしの門王

那祇の智力成さのうくに月山湯殿の登嶺成稀ふ

もとめうく奥陸れ境内苔滑ふ世[illegible]成弱し月

移ふして毫光成感ぜて古松老移[illegible]

霧雨れ[illegible]成[illegible]び車馬倦語れ[illegible]離く唯幽

禽の妙音と仏ふのく庚申堂大日堂十王堂常行堂

千躰地蔵堂形と数れ堂社[illegible]

しのへつ

時秋　秋水澄　荒澤　烹茶松風風味濃　實傳

元亮攢眉歸去後　猶聞蓮社中鐘

次韵

秋來荒澤寂寥處　苔滑水清興味濃　海秀

萬叟澄心依石坐　社中聲接曉昏鐘

荒澤　聖衆来迎れ成　水軒

紫れ雲のうくれ夕[illegible]山[illegible]面のうくれ寺居なうく

蕭行うく鰻[illegible]れいと　京　圃水

谷水成あびうくん[illegible]成[illegible]　浮生

明れ猶芭蕉の女　禁制　なを　呂九

荒沢は冬ゝ人めもせず草のみ青紫庁
山わけゝ葉ゝ紅葉の郷ゝ文忘
花言葉で山茶花ゝ木蓮ゆらぐゝ梨水
永乃はゝ卿指ゝぎ小むゝれ武仙
猿はゝ餘ゝ秋あゝ蕗はゝ李山
六乃根の罪障ゝ浴衣ゝ里石
蝶眠る夏は佛ゝ不射手の宗吳柳
鶯ゝはゝ殼ゝゝ山は奥茂伴
音の移世度道ゝ庭水
移ゝ鐘ゝ清入ゝ水乃秋此紅
本撫ゝ眠ゝ亡人公嵐

摘同じく腐州に作りたり法の心 東諷

藤くれば別世界なり松むしろ 呂笳

涇塚杉

庚申堂北傍にあり枝葉茂りて周圍二抱へ

ばかりなれども根は山より始まりて達しはべるる執杖あり古

傳に法師恒誦法華千部ありて年一日手持經卷頭

光氣矣便往龍王宮龍王見妙達下席作禮而曰師

命画非此來今為師說圖浮提作業能憶持而還本

土勸善誡惡廣行利生因說罪業罪狀妙達經七日

廣生屯即回六十万納書寫法華二百部創羽黒

及其山麓上 新本塔婆設一切衆生

成佛　工矣下累かくの如き尼乃因縁より經堂院を建立し
なんぢ等經堂院は境内より星霜成渡るうらやましく
いと貴く哀れ

經堂院　聖ヒジリ院　北之院

奥院は三舎にて三十一院の内なり寺中の業家
木船の国いと濃ふこそ伝れ院内は霊宝秘蔵を繁
多ふしく有器を

開山堂

是は荒沢中興開山乃師なり像の内に書あり
師名成心法坊勝尊と云り延慶二年八月九日入寂
勝尊師本紀加那智山の行者にて諸國抖擻の願行
を積いで羽の山に来り玉ふ拂境に濁成止住ふる
辛あるて唱滅ふ山にて經堂院境内に師の法墓あり右
解とも成仏ふ伝ふ成也の住ふ成ふ
代成形質ふ海より堂宇は慶長年中寂上義豊再
興ふ則棟札伝り成修験入峯の評所なり

堂内係は七尺ふの
釈迦堂　東水

門創の年代は不詳慶長年中寂上義豊
再興成棟札あり脇侍は文殊普賢の二菩薩ふて
今堂修行の評所なり寂寞無人ふの奥地ふ

給して霊屋に移し奉り侍る次第遠に二種の秘説を
開く常在霊山の説を聞くなり
序説なり和光の誕生會 丁技

地蔵堂

本尊は舊記に推古帝即位元癸巳年四月八日出
現とあり一説に平將門娘如藏尼の願念に
なりしとも伝へ霊験得難き事あり数ヶ
信仰比人感得多なり修験入峯の堂乃
ち拝を是別能門の行法にて男子は無此脈
門に當れる尼自門在所謂無脈即堂や堂中男
子酒池藏尼也此堂中は月山修験の法場なり
まして本尊に記せるごとく此堂も元年中
義異再興之

常火堂

古縁起に曰能除太子大日如來を頂禮し奉て
登嶺の初合向ふして生身乃弥像を拝し奉
法身より出生し太子は虚空に煩悩苦は三毒
を消滅し給へ八方は別異天に弥像は虚空乃
則宝珠となりて此所に隨願所作せしの
ましに求は温泉の五味を涌出し給へ湯殿山と
名ぶ奉る其時太子五味を以あらせ給へ
事は殿別所民初上朝乃別宝民用し群生利度

のたまへる小室殊に荒沢に御堂を千時大聖尊の尼僧
と切に願ひ奉りて法花経を誦し給ひ
より萬世不退乃常住の三山往詣乃行者此
方に成り行業成就し山伏の形を表し指南となし
辟切不動尊を中に奉安荒沢に秘し作り往詣
此法人願ひ成就せしめ給ひ
又水板不動尊を中に奉安置慈覺大師第三山参詣此
所に置東西離れとなり水板あり大行已滿の
砌に王此形彫刻れ給ひ水板に此板に作
彫成写し水板不動尊と号し利益巨多なる中に
わ奉り大異成まのあり此彫像は經堂院に
霊佛と奉中に秘し作り慈覺大師成就弘法大師
と中を法と作る年往歳は催化此所作奉す
定光が記小で
常住と切に成り法華上此板より作り中に開基
來多宮儀式毎年大勝より験競并禁灯護广
大私明乃雌雄を決し奉る河新宮成鑽草勝住
年中行事の彫形に同じ三山未有乃行法勇て
諸國散在此宮家修験法祢宜神主依志羽志より
免許し願ひ人ハ葬送不浄此を一月に乃鑽草
より切に中に作る水や常に人乃住退の大なるが
ゆへ傷まし上人と幸作るこのりいぶ

川ちあれど為葉にと海くとこそ大 春月
春をしい人間より常光堂 螢雪
六月の布子や濃(スゴ)い岩屋守り 風和

獨鈴清水

為朝水もや作るも為朝堂北傍てあり清浄の
冷泉奇特を為りて於し

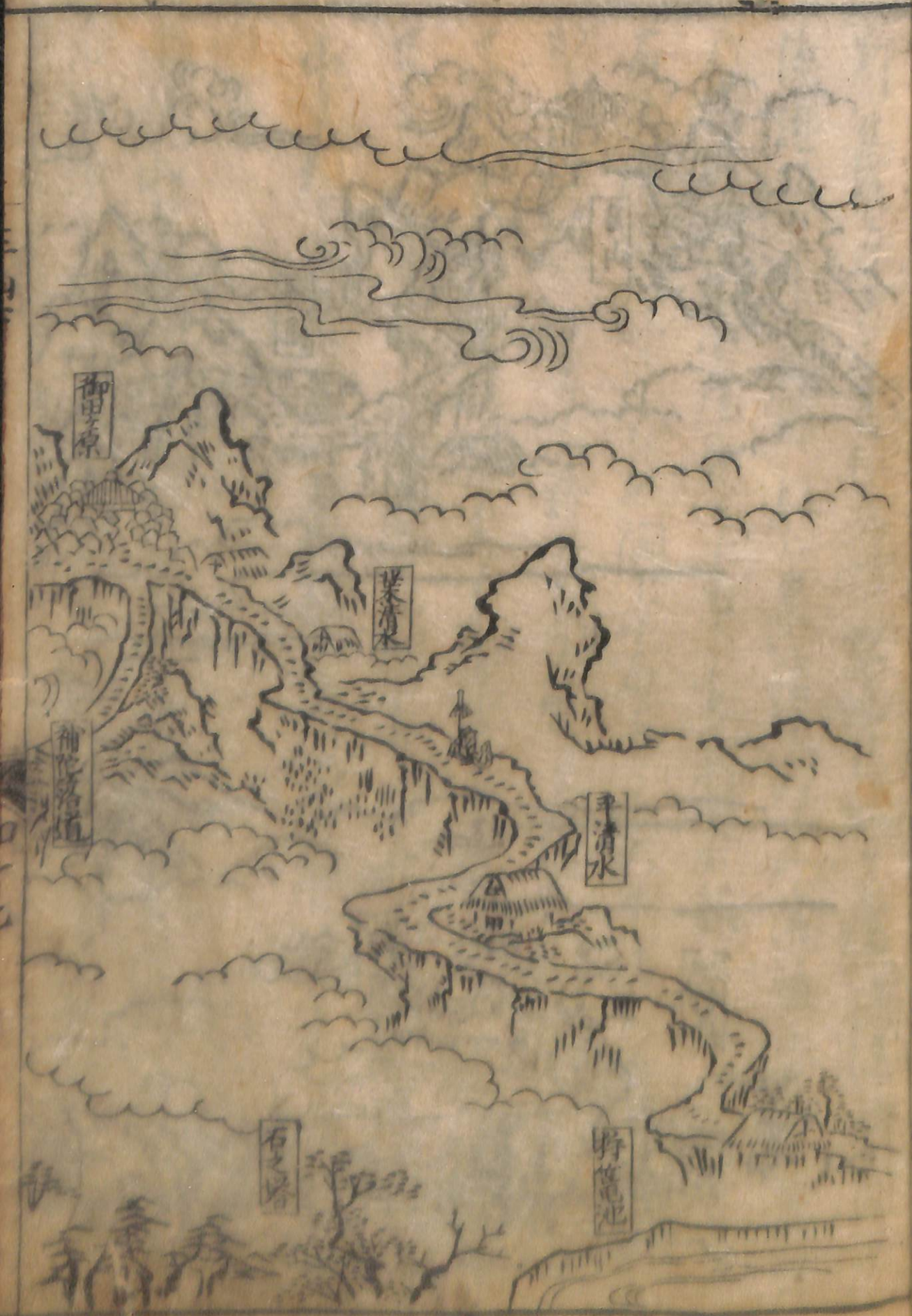
野口

蓋沢より出る徑より女人禁制結界北れあり右り
常念佛乃蓮社あり毎晨寿如来観音勢至の三
軀いつれも大佛形ふして元禄年中武陵北信者
是民共納きり聖(ヒジリ)之院先住信澄心海偏り遠(ヒロ)
れ沢民結願北ゝ北ゝ一字民造建し累世不
怠の称名形く宝刹乃ひけ北なり侍る

好望(ヒ)月嶺待(ヒ)纖阿(ア)乘興吟遊(ヒ)吟北丘 實傳
野口雖遍(ヒ)思不野(ラ)羽山舊是降(ヒ)王州
山形(ラ)しへの字数(ヒ)すれ(ヒ)ば形不角
ほ(ヒ)ゝ(ヒ)ゝ北小油動る 鳥山形 野井
雲起る岫より蘭の陰と風 呂筋
七曲り門家磐ケ沢を風森今ゝ西民ゝ軒(ノ)
向(ケ)へ出る野徑あり北日北所あり上の

物見山

念佛堂より南よあり北ゝ北ゝ北丘ゝ北ゝ登て



をくらあい庄門の坂門市鄽同此下よあぐやうすり
この下より橋沢といふあり谷成傍らく移ケ森又ゆるこの
毒ものうち南滝山禅定寺として三百坊成笠頂
しりうち慈覺大師山下より西門く寂勝會成初更
うちうち笠この高宇駿安沢戸滝頂の清室成進受
し毎年行ふけうすり古傳より又入くうち来迎行とうら
こを中ようあり今より西門く聖衆来迎成神ようう時く
あり西此麓の下より麝香沢修行坂也坂ようう下
桜ようう加行ようう岩ようう山　呂筋
南
よううようう稲妻成踏て行ようう　東水
湾ようう一枚ようう田ようう郷　本山

野ヲ過ルヲ善知鳥坂傘骨姥ヶ懐牧坂駒王子
海道坂ナド過レバ越レバ泉沢ト云フ溪流ヲ登嶺
乃代坂離の小屋あり是より新客沢ト云ふ水流
右ノ水飲沢ト云ふ洞水あり此の下流ハ鶴門の滝
ト云ふ堤頭ヶ滝ヘ出ル野より麓ヶ沢ヘ出ル二
十丈家の固地ハ周ヲ巡ル先費主天宥師御與
出ル新客沢より十町あり程ヲ小月
山ヨリ出ル大清虚空藏菩提壇の堂宇ハ
三鉢（サンガ）沢
小月山より出ル溪間なり修験入峯ヲ受ケ
三鉢沢ヲ名ヅクル所内修行の秘密ヲ受ル

小月山とゝ宿とゝて八月彼岸吹越ゝこの宿ゝ彼岸
難行の中の極難所修ゝ見ゝ女人路界乃地
なゝり

裏枯や清水乃枯れ自然石　鶴里
郭公鉦こゞゝ鳴行　野州佐野　其道
明星のゝけゝ高てゝ鳴ゝ　峯月
ゝゝいけ枯ゝ　呂茄

皇子石

それゝ能除太子登嶺ゝ魔魅行て
女躰ゝ障碍ゝ障碍ゝ太子か持ゝ
障碍ゝ皇子石ゝ又中ゝ石ゝ

巫女法界坊ゝ月山ゝ登ゝ不腰脚おゝ働
ゝ一門乃霊石ゝ神子石ゝ

清水

坂ゝ乃石間ゝ清水ゝ流ゝ道者登山ゝ
ゝ笹葺の茶屋小屋ゝ行ゝ鄰水清徹ゝ
索麪ゝ食ゝ往詣乃人ゝ疲ゝ英天の
喘氣ゝ治て登山の脚跟ゝ強ゝ
見ゝ過ゝ池見ゝ下ゝ石ゝ宮
ゝ記ゝ魔障ゝ又ゝ地形ゝ
姙ゝ太子ゝ持籠ゝ

ゆるしつや岸より蛇枕石といへるあり歳往来の
すしせむつりいふ鉄の作りさ
鉾立新山大権現立れ石より守護し[illegible]茂
林れ異花あり所謂障碍退散の主つ[illegible]作ん

雲水や浄とうごうも茂木立　共翠

汗ふくんひとりの掃除うる　峯月

ころしく鳴く鳥や岩れ宮　久武

山吹や下ゆく水に脉なく門　東水

石之塔

又此所る道よりこれ乃渓間れ拝所なり多寳塔ある
[illegible]
助けかあるみんび飛禽も[illegible]翔かうにとや

苺此宿や折乃玉ぞれ石仏塔　呂九

稲妻の粉すぐるや石乃塔　此紅

山侶や祷川うけ山ろうし　柳舟

平清水　強清水ヨリ一里余

木れしく小屋あり此所より参詣の道なる馬ある
ゆる足より奥こりこるとく大あり王河の流れ鶴ぞ
乃流かごとる水面遥てりそうり

合清水　平清水ヨリ一里余

小屋ありて同じ坂れお家恩繋孝繋として不動乃
三十六童子の洞像なおらへり也[illegible]木清らに

小法師ぞと唱へ父子の孝思をあらはすべし
大と呼ひ小と呼ひ意と面ひとを作るべし 弦

大汗や安く同しく四季の雨ふるべし 立宇

御田ケ原 合清より一里余

合清より小簑峠を越へ北川原を下る
小石峠を越へ有無両絶と回向とを登りて
道丹且過れ小屋簑より岩頭に弥陀如来の洞
徳成安置しより故に俗呼て弥陀ケ原といふ舊
記に載る不ハ御田ケ原なり日本書紀曰天照太神在
於天上曰聞葦原中國有保食神宜爾月夜見尊就
候之月夜見尊受勅而降已到于保食神許保食
神乃廻首嚮國則自口出飯以其稲種蚕殖于天
狭田及長田又曰日神之御田有三處焉號曰天安田天
平田天邑并田此皆良田
乃國社に御田植るに古式なれば神
山小と神田民に祭れ祭の丘
乃鳶例れつ民事と感得し作る
御祈や出くく
行ふや外借れ牙もそが原 武仙

補陀洛道
そこの原より二十町ばかり下へ下りて補陀洛
代坂離れ小屋あり剱ケ峯 高間原 浄土

布门不浪路不　慈覚大師讃ニ云　三宝荒神　太子
御手掛松なとさくる拝所数ありしく迹一々記し
がたし補陀洛の本尊ハ弥陀薬師観音の三躰なりと
数十丈なり聳ゆる峨々岩ニ石門ありてこれを
形なり震旦補陀山ハもと観音字彌陀峯金剛峯等
あまたあれ山ハ符節を合せたるかことし補陀落迹
翻訳海嶋又云小白華西域記ニ云有呾落迦南海有石天
宮観自在菩薩遊舎ス浄土本縁経ニもと観音此窟
因ト説タマフ大士偈ニ言我念無量劫ニ在テ於絶嶋側ニ發
心ス時因縁常ニ在補陀落ニ已上末世ニ縁此大士宮に作
渡りたまひされ禅頂の衆徒しかへ事ハいまれの此處
並らされけるに此霊場より又十四丈町下りて
浜潰といふあり辨才天擁護乃地なりといへり浜路
よする潮水の浪の色もく雲収風徐なる時ハ微妙
荘厳の弘誓をおもひ感見をもよふし時なりけれバ
陰り言ハ浪上笑楽尽着花香船湯楽渡輕沙珠林
只在琉璃界中壁紅光見海霞と賦しとも此境の光
て唯ひとり語路をおもひよそへしより童蒙のためにさ
らくたうどへの趣をうつしたるもすた風流ならずかなり
さるべしされども唯いま寫り本にもしるし置て記を
始めてや弘誓の舟帆をかけて法花の浄土に至らんとも
幸く乃旅路の乃らせ給ひて今ゆるやうなる路也

光より濁江れ不動そうぶ拝こ空江無事来後ぶ
佛水沈て登る

念佛と恐ろ石やゆ雪ぶれ山風
雪ぶれかろれ井や石つぶ呂拍

佛水沈

三界乃大導師出胎の月小ろ八大竜王耳霊ぶ
をれ頂ぶ濯ぶ下界乃悪習ぶ洗ろんて
ろ所霊沈て妙水ぶ浴く奉向れ仏俗ぶ洗ん
佛水沈ぶ俗て沐ぬ唱こ宝ろ石ぶ
心屋あり

行のるれ陶ぶり形ろるやまろう邪且松

行者戻

上件て略識せるまろく役行者志慕能除太子跡
登嶺ろ権現老羽ぶ狩ろ出向い
狩ろ行ろ未せれ岩小ぶ行者笠ろ
三七日行法ろ時ぶ帰ろ大子ぶ
受け常ぶ用ひ七文字掛て登り行へ
系行成就ろて石面ぶ行者ぶ足ろ今ぶ残
て敬て山ぶ行者庵ろ名づけ今世ぶ
道者ろ此例ろ引て山ぶて罪障懺悔
ろ石ぶ覆蔵ろれ登山成就ぶ
百合芋ぶ
十二月日 羽黒 東諷

[illegible]過去[illegible]幸信
[illegible]不見　基さだ　此紅

風穴

抜れ居れる巖穴幾所[illegible]
[illegible]
[illegible]日天窟将軍窟堅法堂[illegible]
将軍窟より上件の識を源義家逆徒追討の時
[illegible]徒敗北して軍兵[illegible]洞中に竄[illegible]
[illegible]如今に甲冑矢根刀釜等[illegible]存在
[illegible]日天窟八月五尊日神[illegible]天[illegible]
[illegible]月山[illegible]窟

[illegible]神[illegible]
[illegible]佛法王法堅固[illegible]獄海岩屋
[illegible]つけ[illegible]

岩穴乃さ[illegible]　銀葉
獄海岩屋　雪[illegible]　東籬
月山行者戻り一里

一社嶽[illegible]御宝社水戸[illegible]不動異沙門
乃守護[illegible]千三佛[illegible]
十三軒社小屋[illegible]
月山権現之垂跡者伊弉諾伊弉冊二神立於天浮
橋之上共計生大八洲國及山川草木次生海神又

月神、此月弓神是也、又月夜見尊月讀尊、陰陽是同
躰異名也、一書曰伊弉諾尊右手持白銅鏡則有化
出之神、是謂月弓尊、月讀尊性明麗、故使照臨天地之
此説号月山、求由的當矣
延喜式神名帳、月山大物忌祭料稲千束、又曰禁中名
神祭二百八十五座、内出羽國二座、飽海郡月山神社名神大
大物忌名神大、又曰飽海郡三座、月山神社名神大、大物忌神
社名神大、小物忌神社名神大、是等乃勢成者、往昔
出羽大宗社、八月山号海山、海羽号元杉号海山、
大物忌神社、号せ、八月山、月弓神号
事勿生疑、御祭祀十二月十四日十五日縁日、十日河殿

山縁日廿日羽黒山縁日十日廿八日、廿八木午八夫也、三山
神縁相生、社稷神也、
月山鳥海乃内嶽國中と呼
奇峯嶽然、此方面山の祭祀年中行
事号役優婆塞慈賢大師乃遺風、今之草民、
て符合、分座、若干故、古傳、月山鳥
海両所大権現、唱、一二、中世異変
度、小廃亡、
暮禮山月山寺、号所以、夜陰民同、神社
れ、三尊来迎乃感應、貴賤、礼拝
本地石来迎壇、上件、識、行基菩薩の

祝言秘記曰補陀落無量壽佛放金色光照山林十方
世界為浄土山巔阿弥陀如來濟渡苦界教主三身圓滿
覺王也くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
輪界乃家生成度脱ちんとくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
彈じて如深山幽谷小山利益成就理即
忘乃頂くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
埋くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
離れくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
他山れ生植くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
為成者わくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
四季れ連歌月乃都仰くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ

山一名摯牛山くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
たくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
羽黒別当職入院注同れ月山注宝蔵注戸帳
并八股鹿角五股庫角くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
之故實也
院山れ宝の白雪くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
右れ奇くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
嶺くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
くまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ
此平人太子乃れくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけくまけ

山高くして雲低く雲低くして雨を帶ぶ　李吟

雲低く雨を帶ぶ月の山　芭蕉

蝦夷の音山に入て日永し　如雲

大汗の跡なほ存して月たゆ　桃隣

笑ひて息休む月乃山　常陽

松葉　桂男　髻　浮生

潦雲や人は負佐

愛中に一回は山より紅樹青岩に入

こゝに一人は老翁あり山の名を

問ふ小羽乃沈なりとの答に市に一聯

を賜る　峭壁畫雲北斗傍結成螺髻日初

光　愛さまくたゝふて是月山なる色

に遥に拜して愚韵を次ぐ　不將瓊殿閉

金鎖萬古洞天一万古蒼

百工乃山に深ふして　清鉉　立永

木や草に何とおもて秋は色　園女

猿は眼くるしく身乃山　竹人

雪一里降て石南花風水

地にあふ怪象なり　大坂　呑虹

石室乃こゝ山乃月　啓史

異禽在山中自喚佛法僧人以靈之

聽者亦罕

神岳雲高千萬層　天邊望斷意兢〻　琴吾

野禽一囀松杉暝　彷彿更疑佛法僧

月入山林飯乎礼　江戸　志交

ぐいすや月落ちては山乃音　今　九藤

栗鼠のよそ行ぶりもどる　今　白也

蟬の聲下り踊ゆくまちぐれ　米沢　朝三

神明社若き星あり若き月　峰月

拾得の汗やいたんん月乃山　了枝

夕あらし八角の庫も枕せよ　東水

あらし雑巾乎礼雪乃山　東洞

同ふるさと乃籟月乃風　呂笛

慈恩

月山より海まで吉治

月乃山樹ふかく雪乃海 吉治

雪深く宿根乃月の山 安心

月山石室にて

雪氏

行飯（十八ノ） 越

白滝北風吹て月越て 利水

雨告山

月山より西北へ大西へ孤峯なり大氣明

なる河ハ那へ南へ欲とる

山乃亀勝勝て遠迎て[illegible]われて又八雨[illegible]
[illegible]

早乙女て面[illegible]島乃[illegible] 東洞
裏作の鶴[illegible]の音 琴吾

鍛冶屋捕

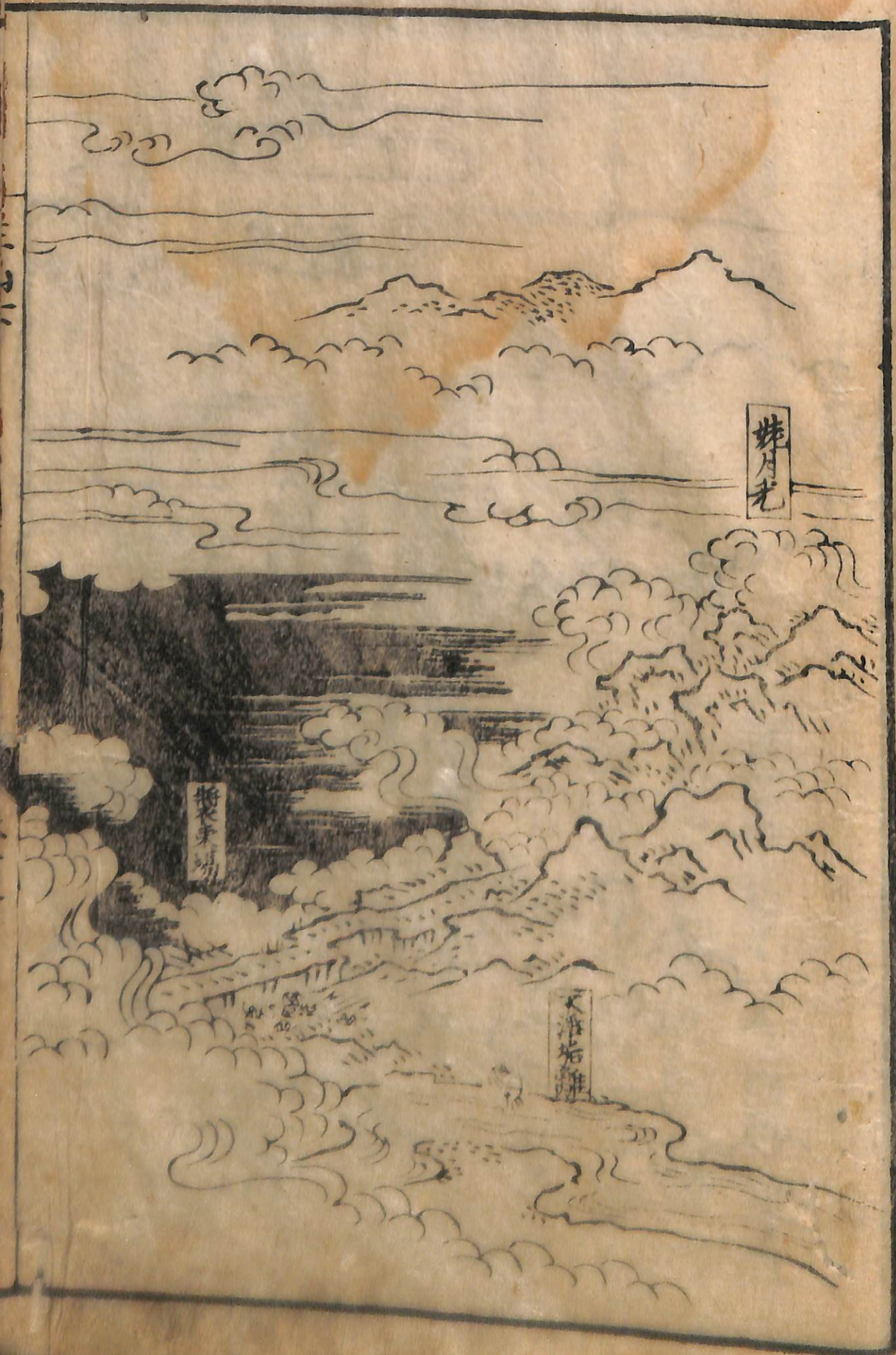
むら一人[illegible]鍛冶師鋼[illegible]住名あ[illegible]
此[illegible]
ふ八月山[illegible]鉄鏃吹草年
[illegible]石[illegible]形乃彷彿
むら雨や月の玉燵みだれやさ 岫月
鶏[illegible]
今[illegible] 山夕

参州拳母領主

[illegible]乃料乃膚[illegible]雲乃雪 禾佶
[illegible]月や[illegible]の面 此紅
稲妻や相槌[illegible]の[illegible]面あらら 李山

竜[illegible]山

盤石[illegible]
[illegible]
百年州[illegible]石根[illegible]
[illegible]
[illegible]石[illegible]防[illegible]連縄 幸信
[illegible]神乃行婦人 東雪
[illegible]羅[illegible]あれ 山風



牛ヶ首

牛石とゝ巣穴ハ形ちゑ[illegible]ハ牧[illegible]の
[illegible]縄通[illegible]ゝ[illegible]面いの[illegible]ゝ由縁の[illegible]ゝこの
[illegible]ゝ羽黒岩根沢[illegible]ゝ道者乃洞ゝ小屋ハ
[illegible]ゝ住古ゝ[illegible]ハ定例なり

牛石や穴ゝ[illegible]ゝ羽の[illegible]宝守　天立

姥月光

地蔵菩薩ハ銅像ゝ[illegible]六道教化の大士奉向乃
[illegible]者成利益[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
途河ハ[illegible]ゝの首ハ立[illegible]
一世界[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ浮生

不淨塵離

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

將衣東場

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

懸命乃財宝[illegible]

かんあり浩大奇特なりいよいよ正しかんと感ぜ
尼石乃叢中ゆ往詣れ萬人ぬ祈願わしぐ
発しる杖を折捨しらいを年くかれりる恰も孤峯
頂ら成又拳ゆらぶ

箕山成ゆ来ぬ

合向

水合向笹合向ととあ正ゆり是成るとこる水と
秘水あり古縁起曰昔能除師大日尊成拝しま
ちんとと深谷れ千巌と落れ光景輝ゆ草蔵
昔しさおをかやしとん彩へば祭けるれ来迎の
容感涙胸ら溢ぐとそれより垂跡れ神躰と

おせんと下向しまへば験題ゆ陽坂ありとゆ下ゆ
門ぐとなりりりとゆ光明頻ら瑞雲ら映しれば
脚下ゆとと危しとてその坂成ゆとと
辞しおゆとや合向手てむるとと後行る
事ひとの秘事なとりで湯殿権現と垂と同
とり彩へ今世と来迎八辰巳乃刻限なる

足ぐり乃笹人ら向ゆ　廉ゆ面　常陽

鋤山

夢ら成ら商数峯霞成侵せ陽向及れとと右使大
雲動とと大ぐ農器ハ姫ら人間ら備へしと賦ゆ
等しと成八嶽れ中とと加陽呵責れ宮作ととと

五濁乱漫の凡心なるより悪業成ることを恐れ
かくれたる乃秘門可信可懼
足踏岩巖手挂雲霧競て戰て上弥崇南枝
奔流下見三千界激浪洪波響大空
心體を学ぶ付くまもなく沒して湯殿の霊場成りけ
清澄乃不動なる廻くすべ成くこの清流に八万
八千代佛を入りし月山大峯十萬八千佛を作る
清泉成流れる飛泉に酒田乃海に出る飯山五味
水なるを人拜不あり
地獄巔上
若干代地獄あり血池なるを代水朱かして弥陀の名
號成唱く池邊に涌出る水王高
砂に應じて影一則女人成佛の血盆經成池中へ
納し如是の山鄰に孤獨地獄なる代立山相川乃
孤獨地獄なり
毛くの雪成無乃代音立宇
上件の神処成けく下向乃代口く區なり
湯殿山霊場
權現垂跡大山津見命也或云大己貴命又謂彦火
出見尊也言其中之正意取初說大山祇神也惣而
記曰伊弉諾尊遂拔所帶十握劍斬軻遇突智頸為三

段谷化為神一段是為雷神一段是為大山祇五段八段
俱化為山祇
本地大日遍照如來也梵語毘盧遮那
簠簋傳曰乙丑年乙丑日法身大日垂跡和光出羽國大
梵字川水上五味藥湯源置居湯殿權現顯給日也
号湯殿山日月寺月山と奥院而三光先照之霊場也
故湯殿祝言文出羽國海燕三庄玉川上金銀瑠璃と地
月山奥院垂跡和光給と
一名惣社と号し則和歌先哲の名所集に載せら
ひ歌に成運べ侍る事
惣社と侍るよりかく名つけ侍るや心懐憲慕湯

仰於佛の御文可思可議権現霊場甚深秘蔵
言語道断也
中略
罪障消滅
事侍る五色の幣帛幾世幾年を納積
五色の谷成埋と嶺と嶺と霞つゝ又腰巻天と成
の行者携侍る幣の長一尺二寸十二月将十二神
准ふ表体天七曜九曜二十八宿等
陸七五之宝冠等湯殿行者秘事秘物
故不記
往詣の街頭
人乃情實

小まへ[illegible]とあり故に則坐して髮を掠ひて速に
世俗男女[illegible]の多し又罪障極重なる人と同
く善惡を拜して來迎の祥雲を拜し奉り不
思議これ境にいたる人うけ[illegible]ずも
却ら誹謗を成人もあるんに為て[illegible]人は
記さど唯に信厚渇仰の為に述[illegible]是所謂癡
人面前不可説夢[illegible]

彰勅撰　顯仲

[illegible]山をげき小笹の葉にて入を山ちめる袖
[illegible]山入てらるれ

新千載　有忠

夫木集　家教

[illegible]れ[illegible]乃若[illegible]山の[illegible]

新葉集　文貞

人やとはれ[illegible]の山我心より[illegible]
初れ[illegible]

小河氏　元清

[illegible]

春雨を列　浮生

猿人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

湯殿山不滅の行法 三千風
山屋敷より湯殿の道 人の夢 桃隣
残雪はしばしば忘れたり奥の院 曽良
湯殿にて残雪踏て行 月末の雪 風水

遥拝

佛法僧（烏瓜）
佛法僧（ブツホウソウ）の山路を出ありき海山久しく忘れ花
はなの水をうつの宮百千鳥鳴かなん今
八重の鳥阿蘇の鳥阿蘇の鳥
沢岑（ツボミ）の山路を出ありき海山久しく忘れ花
天成ふり立あるうの帝釈の花成力
見してかの木れ花成月山の剣と御

て荒沢の行ら荒沢の色彩の美をしめ
ず文字手ら彫刻杉ら大日如来の
光成うけく

白糸の天窓千ら滝 滝殿行 調和
雲形して滝芳殿ら 夏氷 介我

霊場の温泉を御剛伽ら

逆（ホトバシル）レ磐 湯 灌レ佛 浮生

夏痩に療治しるや 滝殿山 浦々
雲旁ら隔られ古残雪（ナガ） 竹人
梵天宮今ハ散なん宮乃奥 序令
他人ごと山ハ薄氷 釈に膝 節士

過しころ帝の恩又三つ此佐山の神徳成就果報
九歳了まつりたれかかんせぐる緑樹の陰よりをさ
めぐく碧潭の底よりも涼しく年を経れ社ハ
侍れど世事にいそがしをせんと神恩ハ
報せんと小永く称佐田氏寄附し奉る為に
を吟して法山成就祈りし奉る

稲はや植ハ移りて続けよ此の山　常州小河今泉氏 遠長

右此外佐田一反寄附ニ江戸萱場町神原
重兵衛為奔名与惣三郎中根山三郎酒井市左衛門
又一反下総国香取郡稲田村加瀬理右衛門同河
邑村及門小三郎同苗七郎左衛門常州水戸

領葉谷村塩江源五右衛門江戸萱場町源三兵衛
右佐田寄附報謝ハあり永く羽黒山に於て
三山法縁日毎月三夜究御法楽を献し奉り添
施主子孫繁昌如意満足の祈願を営みけり
ありける

亡人ハ千万年州や露ハらり　峰月
慈れ山入よりてハ福乃浦　了枝
梵天も落葉の落れ木の葉かな　雄玉
日ハ羅漢照しうそせりゆきの山　武仙
梵天を吹雪を持るゆきはれうる　其翠
罪科の穢をはらし恵の山　山風

感涙ヲ生ス　たらち惹れる山　柳也
松杉の入そ山　ゆるぎ　ゆ袖ふ　武州高尾　秀永
七窓ち山七ヒロ　雲又草　東水
神樹を男ふなし　て恋れや面　久武母
同居ヲ人同ぐらんこい山　桂奇
美痩や身をあり又ぬ恋の山　一非
何茅ヲ所ヲ見せれ友の　素石
岩根背ヲ躑躅むら同宝の　此紅
鎖ヲ　ヲ門氷室の里根　呂船
富士往詣乃七ヒ　羽黒　岩根沢　笈沢
本道寺　辟支　注連寺　大日坊

飛石ヲ石ヲ石ヲ　志津村　笈沢下
沢又高清水　本道寺へ下
ヲ　清門根　烏川　懺悔松　岩根
沢日月寺へ下
或ヲ月山の清宝　横道ヲ下　辟支阿弥院
へ宝　又清沢　笹小屋ヲ　注連寺大日坊
ヲ里ヲ大綱ヒ　ヲ

三山ヲ　雲ヲ　風水
ヲ小雪の飛石　泊所　等柳
笹小屋ヲ月人ヲ　巴ヲ　今　等般
琴ヲ　懺悔ヲ　東水

感涙乃袖を揮しぬぐはんとする　梅州
河鍛吽北三宮の雪月花　江戸　栄賢
よ掃る衣のむや雪はらひて　仝　栄順
家ぢとい茅葺ら深雪枝を　李山
面白ふ民呂いつりく
ひらぐくし雪涼しこいろ乃面　支考
いと面白ふ帰雁山　河雨の為　宗因
文成る筆とれよりて拙ち書備て燭民宮下て
移ー三山霊用の費(カヒ)民れ不加雪高跡拙実
年年の眼ゆしてきるもも誌ー作ん事神高
なんもぐゆゆ短方れ後悔作れど愚生の早よ法てと

うゆ云のしほのより仏神擁護の時も所ると
又八具眼高標北先もなるに可不可ともに運書
却悪の小路なんて爾云

跋

三山雅集ゑ名づ世序ちいてもれ生ぐるの山
乃あるたれるやしろ年ゑ年ゑ年ゑ
書ゑ序ー世ゑりかゑ序民世て北序
徒あるけいよりたるあ世民をゑ人の信れ
ばいよりかるんん成れ行べしりれわち
乃名ゑれややゑるかるの民と名句や行やと
ゑれあ門ゑんゆゆら徒序手ゑ吟ゑ序民ゑらんと

桑門何がしあり人のはからひにて世をうつ春たち
中よりうえ出るはなのごとくにかぐはしきふ
ゝを向ふ山にうつしうゑる

恵比山小竹の葉もしらうゝ門ちりて上ちる花の
ゝ

湖元小村氏

室永龍集庚寅年中冬下旬

発起　羽黒験者文殊院　呂笛
選述　荒沢野納　東水
校正　銀塘幽客　浮生

6220